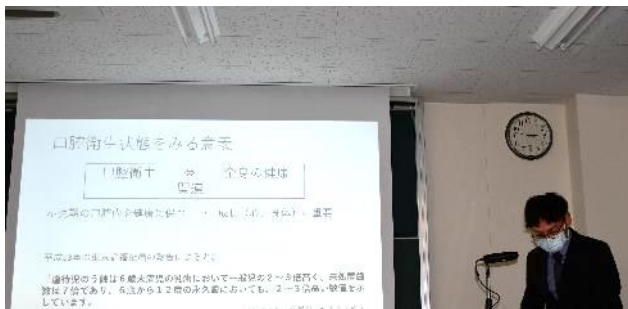


令和5年度「児童虐待対応に関する歯科法医学研究会」を開催

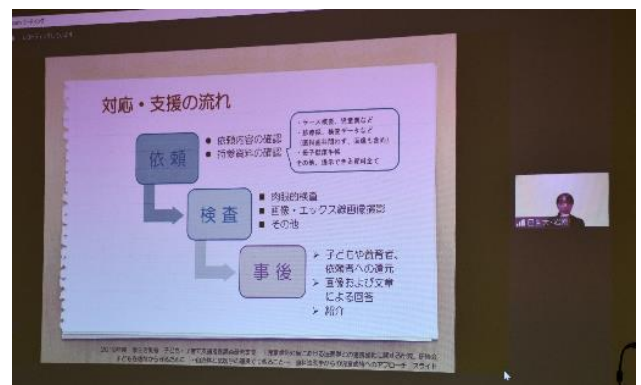
医歯工法プロでは、令和5年12月17日（日）に令和5年度「児童虐待対応に関する歯科法医学研究会」を主催しました。児童虐待を歯科法医学の観点から見つめる研究会として、昨年度に引き続き第2回目の開催です。今回はハイブリッド開催とし、医歯工法プロ受講生以外にも、主に歯科医師や歯科医療にかかわる方々、児童保護に係る職種の方々を中心にお声がけし、児童虐待に対してどのようなアプローチが可能か、基調講演や研究発表等を通じて参加者で考えました。

基調講演は、鶴見大学歯学部小児歯科学の 船山 ひろみ 講師にお願いし、小児歯科の外来で児童虐待が疑われる事例について、来院時や受付での様子も含めた独自のアセスメントシートに基づく虐待を見逃さないための仕組みづくり、その後の経過などを、豊富な事例を通してご紹介いただきました。個々の事例は全て貴重なものであり、参加者は皆さん熱心に拝聴していました。



続いて、金沢大学法医学教室から、増田 浩子 特任助教が、法医学教室と児童相談所との連携について報告し、大学院2年生の鈴木 雄大 さん（歯科医師）が、児童相談所の一時保護児童の口腔衛生状態について発表しました。

昨年同様、日本歯科大学生命歯学部歯科法医学講座の岩原 香織 教授から、発表に対するコメントと、併せて児童虐待に対する歯科医師と関連機関との連携について、神奈川県での取り組みの実例を元にその意義をご説明いただきました。また、口腔内環境に関する各種研究成果や、口腔観察による情報を児童の健全育成にどう活かすかということのお話も大変興味深いものでした。



参加者が、歯科から児童虐待の早期発見・早期対応につながった事例等の情報共有を通して、虐待からの保護や児童の健全な育成のために必要な支援に、より良い形で取り込まれることが期待されます。